

看護学生の主体性と学業生活における自己の動機づけの学年間の比較 —主体性尺度および自己の動機づけ尺度を用いた学生の特徴—

伊藤有希*1

要旨：本研究は、岡山県 A 専門学校（以下、A 校）保健看護学科の在校生の主体性および学業生活における自己の動機づけの調査を行い、看護学生の特徴を考察し、今後の学生指導の方策を探ることを目的としたものである。調査対象は、A 校保健看護学科に在籍する 1 年生～4 年生の 129 名であった。対象者に対して主体性（5 因子）と学業生活における自己の動機づけ（4 因子）を測定し、学年間の差を一元配置分散分析を用いて比較した。その結果、主体性および学業生活における自己の動機づけのどちらにおいても、学年間での有意差は認められなかった。しかし、主体性については、1 年生が他の学年に比べわずかに低い傾向がみられた。また、学業生活における自己の動機づけについては 4 年生が高い傾向がみられた。これらのことより看護学生にとって講義や演習、友人との関係性、進路選択、臨地実習での経験や教員・看護師からの指導の経験が学年の特徴に影響している可能性が示唆された。

キーワード：主体性、動機づけ、看護、学生

はじめに

少子超高齢社会の中、医療を取り巻く環境は急速に変化しており、看護師に求められる役割や責務は増大している¹⁾。厚生労働省は看護教育の内容と方法に関する検討会報告書²⁾のなかで、「看護師基礎教育において今後強化すべき内容として、状況を見極め、的確に判断する能力を育成する教育、主体的に学習する態度を養う教育が必要である」と述べている。また、山口ら³⁾も「看護学生は、専門職としての資質向上のために、自ら学習し続ける必要があり、看護基礎教育課程に入学すると同時に、主体的な学習が求められる」と述べている。さらに、「新人看護職員研修ガイドライン」を示し、看護職の臨床実践能力構造の核の一つとして、生涯にわたる主体的な自己学習の継続を挙げている。特に、この「生涯にわたる主体的な自己学習の継続」は、就職後一年以内に習得を目指すこと³⁾とされており、看護職になっても主体的に学習することを重要視している。しかし、安ヶ平ら⁴⁾は基礎看護学を学ぶ学生は、「主体的学習態度に欠ける」、「考えるプロセスより正解を求める」、「知識を関連づけたり、活かすことができない」と述べており、看護学生の主体性を育てる教育の必要性を示唆している。

2024 年現在、在籍中の学生たちは文部科学省⁵⁾より、「生きる力」をはぐくむという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力を身に付け、自ら考え行動できる力を重視した教育を受けてきた学生である。さらに卒業時には保健師および看護師国家試験合格という目標が明確になっている岡山県 A 専門学校（以下、A 校）保健看護学

*1 玉野総合医療専門学校 保健看護学科

科の学生において、講義や実習の経験を積んでいく上級生ほど主体性や学業生活における自己の動機づけが高いのではないかと考えた。そこで、本研究では A 校の看護学生の主体性および学業生活における自己の動機づけの特徴について考察し、今後の学生指導の方策を探ることを目的として調査を実施した。

方法

1. 対象と倫理的配慮

2024 年度 A 校保健看護学科に在籍する学生 134 名（1 年生：30 名，2 年生：32 名，3 年生：36 名，4 年生：36 名）のうち、前期の最終登校日（8 月上旬）に出席した 129 名（1 年生：28 名，2 年生：32 名，3 年生：36 名，4 年生：33 名）を調査対象とした。

A 校は、保健師・看護師統合カリキュラム教育校として、人々の一生を通じた健康支援を多職種と連携し、地域の人々やコミュニティと協働しながら、看護を創造していくことができる基礎的能力を育成することを目指している 4 年制の教育課程である。1 年次は、主に講義を中心に看護を専門的に学ぶための土台となる人体の構造や機能などを基礎から学習し、看護への動機づけと関心を高め、看護の役割について学ぶ内容となっている。2 年次は、1 年次に学習した基礎知識を土台に看護実践のための能力を講義や演習で身につけられる内容となっている。3 年次は、臨地実習が主となり、病院・保健・福祉施設で対象者と接しながら、症状を把握する力と看護実践力を養い、公衆衛生看護学では保健師の活動を講義や演習を通して看護の広がり学ぶ内容となっている。4 年次は、応用知識や技術の習得と看護師および保健師の資格取得を目指すと共に、臨地実習では看護の対象が個人・家族から地域へと広域的な看護を展開できる内容となっている。なお、1～4 年次の臨地実習の時期を図 1 に示した。

学生に対してはヘルシンキ宣言に則り、研究の目的や内容等十分な説明を行い、同意を得た上でアンケートに回答してもらった。なお、研究に参加しない場合においても成績等で不利益を被らないことを保障した。また、アンケートは無記名回答とし、個人が特定できないように連結不可能匿名化とした。なお、本調査にあたっては玉野総合医療専門学校の承認（研究計画番号：2024004）を得て実施した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生				臨地実習	夏季休暇						臨地実習	
2年生					夏季休暇				臨地実習			
3年生		臨地実習			夏季休暇	臨地実習						
4年生	臨地実習			臨地実習	夏季休暇	臨地実習	臨地実習					

図1 実習計画表

看護師	臨地実習
保健師	臨地実習

2. 調査方法および調査内容

1) 調査方法

調査は、Google form を活用し、2024 年 8 月上旬のホームルームの時間に実施した。

2) 調査内容

調査内容は、基本情報（学年，年齢）および主体性，学業生活における自己の動機づけとした。

（1）主体性の測定

主体性の質問項目については、鈴木・岡田が実施したものと同様に、浅海⁹⁾による子どもの主体性尺度 20 項目を使用した。自分一人でもやってみようという気持ちが強く、失敗をおそれず、やることのできる等の「積極的な行動」、よく考えもしないで、友達の言葉をすぐに信じてしまうことが多い等の「自己決定力」、熱中しているものを持っている等の「自己を方向付けるもの」、自分の言葉で自分の考えを言える等の「自己表現」、分からないことはすぐに自分で調べようとする等の「好奇心」の 5 つの因子（表 1）をそのまま使用した。得点化は、「当てはまらない」を 1 点、「あまり当てはまらない」を 2 点、「やや当てはまる」を 3 点、「当てはまる」を 4 点とし、得点が高いほどその項目に対する主体性が強いよう配点した。

表 1 主体性尺度 質問項目 ⑥

積極的な行動

- ・あなたは、やることを人にいわれなくても時間や場所などを考えて自分から進んでしますか
- ・あなたは、結果を気にせず、とにかく取り組むことができますか
- ・あなたは、つまづいたとき、自分なりの考えで乗り越えようとしますか
- ・あなたは、自分一人でもやってみようという気持ちが強く、失敗をおそれずにやることができますか

自己決定力

- ・あなたは、自分が考え出したよい意見でも、みんなに反対されると、理由をよく調べないで、すぐ取り消してしまいますか
- ・あなたは、やろうと思うことも、人からだめだとけなされると、すぐに自信がなくなってしまうですか
- ・あなたは、自分一人でやることでも自分だけでは不安なので、友達と一緒にすることが多いですか
- ・あなたは、よく考えもしないで、友達の言葉を、すぐ信じてしまうことが多い方ですか

自己を方向付けるもの

- ・あなたは、熱中しているもの（趣味・スポーツ・音楽など）を持っていますか
- ・あなたは、色々なことについて、おもしろい、やってみたいという気持ちがありますか
- ・あなたは、大きな目標を持ち、それができるようにこつこつ取り組みますか
- ・あなたは、自分のしていることが、よいか、悪いかが分かりますか

自己表現

- ・あなたは、自分の考えを言うことができますか（発表だけでなく、文や絵を身体表現でも）
- ・あなたは、自分の言葉で自分の考えをいえますか
- ・あなたは、今までやってきたことをもとにして、遊びの中などで自分の考え方や工夫を出すことができますか
- ・あなたは、自分の考えを持って、進んで自分から言いますか

好奇心

- ・あなたは、新しいことをどんどんやってみる気持ちがありますか
- ・あなたは、分からないことはすぐに自分で調べようとしますか
- ・あなたは、正しいと思ったことは、時間をかけてもやりぬきますか
- ・あなたは、時々一人になって、自分の進む道を、よく考えてみますか

（２）学業生活における自己の動機づけの測定

学業生活における自己の動機づけの質問項目については、鈴木ら⁷⁾による学業生活における自己の動機づけ尺度 26 項目を看護学生に分かりやすいよう一部文章表現を変更し、将来の夢をはっきりと持っている、何のために学ぶのか明確である等の学業生活における自己の動機づけの方向性となる「目標設定」、上手くいかないことでもがんばり続ける、できるだけ前に進むことを心がけている等の動機づけを維持することに関連する「遂行維持」、今の自分に、決して満足していない、活動的な自分でありたいと願っている等の動機づけの自己成長に向かわせる根本的な動因に相当する「自己更新」、計画したことでも途中であわてずに変更できる、真剣に考えすぎず、軽く流すこともできる等、問題に柔軟に対応し、動機づけを調整していくことに関連する「調整制御」の 4 つの因子を使用した（表 2）。得点化は、「全く当てはまらない」を 1 点、「ほとんど当てはまらない」を 2 点、「あまり当てはまらない」を 3 点、「どちらともいえない」を 4 点、「やや当てはまる」を 5 点、「かなり当てはまる」を 6 点、「非常に当てはまる」を 7 点とし、得点が高いほどその項目に対する自己の動機づけが高いよう配点した。

表 2 学業生活における動機づけ 質問項目 7)

目標設定

- ・将来の夢をはっきりと持っている
- ・何のために学んでいるのか明確になっている
- ・本当に好きなことを見つけたと思っている
- ・世の中で自分が役に立っていたいと思う
- ・自分のあるべき姿を常に思い描いている
- ・身近に興味関心のある出来事があふれている
- ・自分が知的に成長していく感じがしている
- ・今現在、気になっていることがある

遂行維持

- ・上手くいかないことでもがんばり続ける
- ・できるだけ前に進むことを心がけている
- ・思い通りにいかなくても投げやりにしない
- ・上手くいかないことの原因を確かめている
- ・途中であきらめたくはない
- ・知的に刺激される環境にいたいと思う

自己更新

- ・今の自分に、決して満足していない
- ・活動的な自分でありたいと思っている
- ・知りたいと思うことがたくさんある
- ・どうしてなのか疑問に思うことがある
- ・理解できないことがあると悔しい

調整制御

- ・計画したことでも途中で慌てずに変更できる
- ・真剣に考えすぎず、軽く流すこともできる
- ・自分の調子をいつも確認するようにしている
- ・矛盾や食い違いを受け入れることができる
- ・目標ごとに計画を立てている
- ・目標と現状のズレを確認することを行っている
- ・時には、人に相談するようにしている

3. データ処理

まず、主体性および学業生活における自己の動機づけに関する各因子の得点ならびに合計得点を算出した。そして、これらの得点の学年間の差を一元配置分散分析を用いて比較した。なお、有意水準は両側検定で 5%未満とし、分析には HAD Version 18.008 を使用した。

結果

1) 主体性について

主体性尺度においては，対象者 129 名のうち 105 名から回答が得られ，105 名の有効回答が得られた（回収率 81%・有効回答率 100%）．分析対象者（105 名）の内訳は 1 年生 20 名（回収率 71%），2 年生 28 名（回収率 87%），3 年生 32 名（回収率 88%），4 年生 25 名（回収率 75%）であった．年齢の平均は，1 年生 19.4（標準偏差：以下，SD）2.8）歳，2 年生 20.1（SD 1.9）歳，3 年生 20.2（SD 0.5）歳，4 年生 21.2（SD 0.5）歳であった．

分析の結果，すべての因子および合計の得点において学年による差は認められなかった（表 3）．

表 3 主体性の学年における比較					単位：点
因子/学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	p 値
積極的な行動	11.5 (0.5)	12.1 (0.4)	11.5 (0.4)	11.9 (0.4)	0.630
自己決定力	10.2 (0.5)	11.1 (0.5)	11.0 (0.4)	10.5 (0.5)	0.523
自己を方向付けるもの	13.1 (0.5)	14.2 (0.4)	13.2 (0.4)	13.3 (0.4)	0.187
自己表現	10.4 (0.6)	11.1 (0.5)	11.3 (0.5)	11.7 (0.6)	0.437
好奇心	12.4 (0.5)	12.9 (0.5)	12.7 (0.4)	11.9 (0.5)	0.474
合計	57.4 (1.7)	61.4 (1.4)	60.0 (1.3)	59.3 (1.5)	0.349

() 内は標準偏差値

2) 学業生活における自己の動機づけについて

学業生活における自己の動機づけ尺度においては，対象者 129 名のうち 88 名から回答が得られ，88 名の有効回答が得られた（回収率 68%・有効回答率 100%）．分析対象者（88 名）の内訳は 1 年生 16 名（回収率 57%），2 年生 24 名（回収率 75%），3 年生 29 名（回収率 80%），4 年生 19 名（回収率 57%）であった．年齢の平均は，1 年生 19.4（SD 3.1）歳，2 年生 20.3（SD 2.0）歳，3 年生 20.3（SD 0.5）歳，4 年生 21.3（SD 0.6）歳であった．

分析の結果，全ての因子および合計の得点において学年による差は認められなかった（表 4）．

表4 学業生活における自己の動機づけの学年における比較

単位：点

因子/学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	p 値
目標設定	39.6 (2.2)	39.4 (1.8)	40.3 (1.7)	42.4 (2.0)	0.708
遂行維持	31.6 (1.5)	31.3 (1.3)	31.3 (1.1)	31.5 (1.4)	0.999
自己更新	26.6 (1.2)	27.0 (1.0)	27.9 (0.9)	26.2 (1.1)	0.667
調整制御	32.7 (1.6)	34.2 (1.3)	32.4 (1.2)	35.1 (1.5)	0.457
合計	130.5 (5.5)	131.9 (4.5)	131.9 (4.1)	135.2 (5.0)	0.926

() 内は標準偏差値

考察

1) 主体性について

主体性尺度の合計においては、わずかな差であるが1年生が他の学年と比較し主体性が低い傾向が見られた。これは、1年生は入学後、座学中心の授業から初めての臨地実習を終えた段階であり、地域で生活している人々とその暮らしを理解する中で、看護職者へインタビューやシャドウイングや対象者へのインタビューを通して、看護学生として主体的学習態度を身につけることに課題を感じたのではないかと考える。また、各因子においては、有意な差は認められなかった。しかし、どの因子においても1年生から2年生への平均値は上昇していることから、1年生から2年生にかけて主体性の向上を実感しながら学校生活を送っていると考えられる。今松ら⁸⁾は、Active Learningの手法を用いた演習が学生の主体性を高めると報告しており、入学してグループワークなど能動的な学習に参加する機会が増えた影響があるのではないかと推察する。しかし、その後、学年が上がっても平均値の上昇が見られていないことから、講義や演習のみでなく臨地実習の経験やタイミングが主体性に影響を及ぼしていると考えられる。田中ら⁹⁾は臨地実習について、教員や臨床指導者の関わりとして、学生の主体的な姿勢や実習への取り組みの積極性を肯定的に評価し、その努力を支え、肯定的な自己評価を強化する関わりが重要であると述べている。さらに、船崎ら¹⁰⁾は、「学習者としての意識」「臨地実習における学習準備状況」「看護師に対する認識」「グループダイナミックス」「リアリティショック」が、看護学生の臨地実習中の主体性に影響を与える学生自身の要因であることを明らかにしている。すなわち、看護学生にとって講義や演習、臨地実習での経験が主体性に影響を及ぼすが、そのタイミングにより学年問わず主体性の強さには変化があると言える。

浅海⁶⁾による子どもの「主体性尺度」を用いた鈴木ら⁷⁾の先行研究においては、対象を看護系ではない短期大学1年生と大学1年生と3年生で行い「方向づけ」と「好奇心」を一因子で構成するものと考えた上で大学3年生の方が高い値を示し有意な差が認められたと報告されているが、A校では4年生が低い平均値を示した。これは看護学生の特徴として就職試験や国家試験に向けて目標が明確になっていることから新たなことに対する意欲が低いことが影響していると考えられる。また、「方向づけ」と「好奇心」に加えA校においては、「自己決定力」についても同じように低い平均値を示したため、最高学

年である4年生は、自分自身の考えがある程度明確になり、他者からの影響を受けにくいのではないかと考える。

「自己表現」においては、学年が上がるに伴い平均値が伸びており、これは自分の言葉で自分の意見が言えるようになる力がついていると言える。特に4年生の平均値が僅かに高かった理由は、アンケートした時期が夏季休暇前であり、就職試験に伴う履歴書作成や採用試験の影響もあったことが考えられるが、看護師になるための臨地実習を全て終了した段階でもあり、自分の言葉で表現することに自信を感じているのではないかと考える。

2) 学業生活における自己の動機づけについて

学業生活における自己の動機づけ尺度の合計においては、4年生が他の学年と比較し学業生活における自己の動機づけが高い傾向が見られた。各因子で見ると、「遂行維持」においては、1年生と4年生の平均値が同程度となり、2年生と3年生の平均値が同程度となった。看護学生は、何年生になっても「看護職が、本当に自分に向いているのだろうか」と悩む場合が多い。そして、「悩んでいてはいけない。看護職者になると決めないといけない」と思う場合が多い¹²⁾。とあるが、1年生は入学して3か月が経過した段階であり、前に進もうとする意欲が強いことが考えられる。また、1)の主体性でも述べたように、調査時期が初めての臨地実習終了後であったため、課題に気付いた上で頑張りたいと思う意欲が高かったのではないかと推察する。4年生は、採用試験や国家試験に向けて看護師になるための臨地実習が全て終了し今後の進路についても明確になりつつある段階であり、取り組むべき課題が明確になっているためと考える。また、2年生は臨地実習が始まっていない時期での調査でもあり、将来に向けての漠然とした感覚的な思いが調査に影響したと思料する。3年生は看護学実習前期が終了した段階であり、臨地実習での看護師や教員からの指導や対象者や家族との関わりを通して、課題を感じていることが「調整制御」の結果からも推測することができる。「調整制御」は臨機応変な対応とも言える。臨地実習では、対象者の状態に合わせた柔軟な対応が求められる。学生は、日々の計画を追加修正しながら臨機応変な対応が必要であるが困難さを経験している。しかし、4年生の平均値が高かった理由は、臨地実習での経験が豊富でもあり、計画の修正や気持ちの切り替えを行う力がついているのではないかと考える。

グレッグら¹²⁾は、学習意欲は「動機づけ」という概念で追及されてきたと述べており、学校や仲間との活動を通して、「良い人間関係とそこでの自分の存在が認められる」ことによって意欲が湧いてくることを「親和動機」、そして「何かをやりとげる」ことに向けての意欲は「達成動機」と述べている。これらのことから様々な動機づけが考えられるが、外側からの刺激によって動機づけられる「外発的動機づけ」は、刺激が継続しなければ意欲の減退が生じることが考えられている。それに対し、「学習すること自体」に向けての意欲が生じることが「内発的動機づけ」であり、このことが動機づけとして望ましく「好奇心」に当たるとも述べており、このことから、内発的動機づけが主体性にも影響を与えたと考える。

以上のことから看護学生の主体性および学業生活における自己の動機づけについては、学年間での有意差は出なかったが、学校生活の中で講義や演習、友人との関係性、進路選択、臨地実習での経験や教員・看護師からの指導の経験が学年の特徴に影響していること

が考えられた。

結論

今回、A 校保健看護学科の在校生の主体性および学業生活における自己の動機づけを調査した結果、以下のような知見を得た。

1. 主体性および学業生活における自己の動機づけのどちらも学年間の有意差は認められなかったが、主体性については 1 年生がわずかに他の学年に比べ低い傾向がみられ、学業生活における自己の動機づけについては 4 年生が高い傾向がみられた。
2. 学校生活の中で講義や演習、友人との関係性、進路選択、臨地実習での経験や教員・看護師からの指導の経験が学年の特徴に影響している可能性が示唆された。

謝辞

稿を終えるにあたり、本研究に快く協力していただいた学生の皆様や関係者の方々に深く感謝申し上げます。

文献

- 1) 八木道子, 伊丹君和, 米田照美: 研究ノート 学生の主体性を育てる教育における看護教員の経験に関する文献検討. 人間看護学研究 18: 31-40, 2020
- 2) 厚生労働省: 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書. 厚生労働省ホームページ, (オンライン) <https://www.tenri-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2r98520000013l4m.pdf>, (参照 2024-5-6)
- 3) 酒井太一, 岩清水伴美: 看護大学生における授業での「主体的学習」の概念分析—テキストマイニング—. 日本看護学教育学会誌 32: 67-79, 2022
- 4) 安ヶ平伸枝, 菱沼典子, 大久保暢子他: 基礎看護 学担当教員のとらえる学生の特徴と教授学習方法の工夫. 聖路加看護学会誌 14: 46-52, 2010
- 5) 文部科学省: 学校・家庭・地域が力をあわせ, 社会全体で, 子どもたちの「生きる力」をはぐくむために—新学習指導要領スタート—. 文部科学省ホームページ, (オンライン) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/newcs/pamphlet/_icsFiles/afieldfile/2011/07/26/1234786_1.pdf, (参照 2025-1-23)
- 6) 浅海健一郎: 子どもの主体性と適応感の関係に関する縦断的研究. 九州大学心理学研究 10: 217-223, 2009
- 7) 鈴木賢男, 岡田斉: 大学生の学業生活における満足と主体性との関連性の検討—発達を考慮した主体尺度の必要性を探る—. 人間科学研究 41: 164, 2019
- 8) 今松友紀, 藤田美江, 横山史子他: 看護基礎教育における Active Learning の手法を用いた公衆衛生学教育の試み 第 2 報. 創価大学看護学部紀要 2: 9-21, 2017
- 9) 田中未央, 住吉智子, 渡邊タミ子: 改正カリキュラム導入後の小児看護学病棟実習における看護学生の達成感に関する分析. 新潟大学医学部保健学科紀要 10: 1-10, 2012
- 10) 船崎茜, 横野知江: 看護学生の臨地実習中の主体性に影響を与える自身の要因. 新潟看護ケア研究学

会 3: 13-20, 2017

11) 浅海健一郎：子どもの「主体性尺度」作成の試み. 日本人間性心理学会人間性心理学研究 17： 154-163, 1999

12) グレグ美鈴, 池西悦子:看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う(東京: 南江堂, 改訂第2版, 2018)